会長講演

2026年11月20日(金) 11:10 ~ 11:40 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

会長講演

司会：日比 紀文（慶應義塾大学）

[PL] 腸は全身のはじまり

*金井 隆典[1] (1. 慶應義塾大学医学部内科学（消化器))

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会

会長講演

2026年11月20日(金) 11:10 ~ 11:40 | 第1会場（2F コンベンションホール1）

会長講演

司会：日比 紀文（慶應義塾大学）

[PL] 腸は全身のはじまり

*金井 隆典[1] (1. 慶應義塾大学医学部内科学（消化器))

多細胞動物ヒドラは進化の過程で腸管周囲に神経節を作り、消化管を調整する。より高等動物では、一部の神経節は消化管から離れ、脳を形成した。腸は“セカンドブレイン”というが、進化的には、腸は“ファーストブレイン”であり、脳が“セカンドブレン”と演者は主張したい。二つの“ブレイン”は常に“脳腸相関”をミリ秒単位で交換する。恩師の故土屋雅春先生はフランスで“レイリー現象”、すなわち、末梢臓器の危機情報を脳に伝達し、生態が即座に反応する現象に注目し、世界を牽引する仕事をされ、多くの弟子を育てた。そして、末席の弟子の演者は、今、“臓器連関”にのめり込んでいる。① 腸管免疫寛容の要である腸管の末梢性制御性T細胞(pTreg)は特定腸内細菌の影響を受けて、腸管で産生されると信じられていた。しかし、我々は、腸内細菌情報は門脈を介して肝臓で統合され、求心性迷走神経肝臓枝の神経回路によって脳へ伝達し、迷走神経遠心路を介した神経反射によって腸管pTreg細胞は産生される仕組みを解明した(Nature 2020)。本発見はレイリー現象の新機構である。② もう一人の恩師である日比紀文先生は“原発性硬化性胆管炎(PSC)の大腸炎は潰瘍性大腸炎(UC)ではない！”と、いつも檄を飛ばしていた。ある時、PSCとPSC関連大腸炎の謎を解き明かそうと研究に着手し、ついに、PSCにおける腸肝連関の本体が腸管の病原性Klebusiella pneumoniaによるものであることを発見した(Nature Microbiology 2019)。③“病は気から”と言われ、潰瘍性大腸炎患者もストレスで増悪することが知られている。さらに、迷走神経求心路刺激はより高次な大脳辺縁系へ神経伝達していることも知られている。本講演では、演者の集大成である、腸管から脳を調整して潰瘍性大腸炎を治すという未発表研究も紹介したい。このように、腸は臓器連関を通じて全身に司令を出し続けるファーストブレンであることを紹介しつつ、日本大腸肛門病学会の医学研究への貢献の重要性を熱く語りたいと思う。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会